

特別寄稿

## 「歴史は奇想天外」

歴史研究家：ホソウチ ノブタカ

## 1. 現代の薩長連合なるか、

## 50年間蓄積してきた負の遺産をだれが解消するのか

人類誕生以来、人間のビヘイビアは同じようなもの。その歴史は繰り返す。たとえば最近の政治劇場はますます幕末の世と同じ様相を呈してきた。その劇場のキャストを紹介しよう。主役は小泉純一郎さん、小泉さんはさしずめ井伊大老役。昨年の衆議院選挙では安政の大獄のように郵政問題に反対する議員たちを追放し、自民党の公認はずしを決定した。

幕末の安政では、水戸藩の徳川斉彬、福井藩の松平春嶽、そして多くの勤皇の志士たちが弾圧を受けた。今風ならば、さしずめ国会議員の亀井静香さん、野田聖子さん、平沼赳夫さんなどが党籍離脱の当事者になるのか。歴史は徳川幕府に終止符を命じた。大獄には反動が生じるからである。徳川政権は約260年でその政権に幕を下ろした。

さて現代に時間を戻すと自民党政権はどうだろうか。最近結党50周年を迎えた訳だが小泉さんが去ったあと、政権機能的（歴代将軍数と歴代総裁数がほぼ同じになってきたこと）にそろそろ自民党も終焉のような予感がする。となると次の政権を担う現代の薩長連合はどこか、そしてその主役はだれか？

小生は、薩摩的存在の小沢一郎氏、長州的存在の管直人氏の二人を挙げたい。そして忘れちゃ困る、もう一人役者が必要だ。二人を強く結び付ける坂本竜馬はだれか？会津弁の渡部さんか、スマートな鳩山さんか。それとも第三の人物か。時代が動く時、山が動き、空には雷鳴が轟き、谷には激流が走る。今、世の中そんな嵐の前の静けさだ。おりしも米国産輸入牛肉問題、基地移転問題等から日米間にはバイアスがかかっている。井伊大老は米国との開国を独断専行し、不平等条約を結んだといわれた。

一方小泉さんは米国寄りの政策で、海外派兵、郵政民営化、そして経済分野での規制緩和を押し進めたが、公的な累積債務は800兆円に達し、そして社会的弱者を積み残し、格差社会を生み出した。この格差は人々に貧富の差をもたらしたばかりか、中央と地方、都会と過疎地、正規雇用と非正規雇用、一握りの勝者と多くの敗者などの二極化を一層加速させたようだ。小泉さんに正の遺産があるにせよ、上述のような政権50年間で蓄積されてきた負の遺産もけして少なくない。この負の遺産が現代の薩長連合を生み出すパワーの源になりえるのか。負の遺産の爆発で歴史の振り子は大きく振れる。

かつて水と油のように対立軸であった小沢氏と管氏が現代の薩長連合を組み、一枚岩となり、改革（イノベーション）の御旗を立て、全国からイノベーションの志士が結集し、自民党政権が50年間蓄積してきた負の遺産をはたして解消するのか。政局に目が離せない昨今である。

## 2. 管理・監視社会は先進国共通の悩みか、世知辛い世の中である

小生2年半前に英国外務省の関連団体から招聘を受け、ロンドンでの日英社会起業家の交換会に出席してきた折、英国の国会議事堂を案内していただいた。国会議事堂内はヒューマンスケールの広さで、わが国の村役場の会議場のような雰囲気であり、ディベートとは